

4月号 中谷自治センターだより (2013. 4. 01)

発行責任者 センター長 根本 忠 TEL 26-1457 FAX 26-3068

日	曜日	行事予定	備考
1	月	・中谷自治センターだより/文庫だより	・中谷自治センター
2	火	・ニコニコ会打ち合わせ「第二班」 19:00	・中谷自治センター
3	水		
4	木	・中谷自治センター「施設利用者会」 19:00	・中谷自治センター
5	金		
6	土	・豊齢学級学級「開講式」 19:00	・中田区会事務所
7	日		休館日
8	月	・石川小中学校「入学式」 10:00 ・中谷地区区長会「総会」 19:00	休館日 ・中谷自治センター
9	火	・ニコニコ会4月例会「第二班」 9:00	・中谷自治センター
10	水		
11	木		
12	金	・子育てサロン 9:30 ・中谷地区区長OB会「観桜会/総会」 18:30	・中谷自治センター ・マーヴェラス玉川
13	土		
14	日		休館日
15	月		休館日
16	火	・石川町区長委嘱状交付式&懇親会 14:00	・みのり会館
17	水	・坂路まちづくり委員会「会津」 8:00 ・第一回中谷地区スポーツ大会実行委員会 19:00	・坂路公会堂 ・中谷自治センター
18	木		
19	金	・子育てサロン 9:30	・中谷自治センター
20	土	・安全パトロール 17:30	・中谷自治センター
21	日	・第二回中谷桜めぐり 9:00 出発	休館日 ・中谷自治センター
22	月		休館日
23	火	・ニコニコ会「総会」 19:00	・中谷自治センター
24	水		
25	木		
26	金	・子育てサロン 9:30	・中谷自治センター
27	土		
28	日		休館日
29	月	・[昭和の日]	休館日
30	火	・中谷自治センター運営協議会「総会」 19:00	・中谷自治センター

中谷自治センターだよりはホームページに掲載しています。アドレスは <http://www.town.ishikawa.fukushima.jp/> (石川町のホームページ) から各課と仕事の内容をクリック→自治センターをクリック→中谷自治センターをクリックすると月毎の予定表と活動報告を閲覧できます。

平成25年4月号 中谷自治センターだより

活動計画 & 報告

- 1、ニコニコ会に「舞踊」と「落語」 2013/3/12
 - 2、平成24年度最後の「震災支援ボランティア活動」 2013/3/16
 - 3、豊齢学級「閉講式」2013/3/16
 - 4、退任のあいさつ 根本 忠 2013/3/31
-

1、ニコニコ会に芳柳流の「舞踊」と中谷第一小学校児童の「落語」 2013/3/12

ニコニコ会の3月例会（第一班代表矢吹信彦谷沢区長）が3月12日開催され、芳柳流（会主相楽チイ子さん他5名）の日本舞踊と中谷第一小学校5学年児童8名による落語「番町皿屋敷」が演じられ楽しい

ひと時を過ごしました。

芳柳流のみなさんからは「佐渡おけさ」や「細雪」など全8演目に振りの繊細さと気品のある踊りが披露され、会場を魅了しました。



「8:30 は中谷各地域からぞくぞくと集まり受付を行う」



「先ず血圧を測定するのが日課」



9:00 の開会までの間話に花を咲かせるニコニコ会のみなさん」

「測定した血圧を記録することも忘れない」

中谷第一小学校5学年児童による落語は3学年の時から三回目とあって皆なじみの顔。

会場は児童たちの登場前から万全なニコニコ態勢。

児童たち8名の絶妙な間合いと軽妙な語り口は真打の噺家そのもの。

ヤマ場のイチマ〜イ、ニマ〜イと数える程に身構える会場はすっかりとりこに。

最後までのりに乗った熱演で会場を沸かせました。

会場からは、
また来てくんちない！

と
ラブコールがとぶ



☆芳柳流（相楽チイ子さん他5名）のみなさん、ありがとうございました。

☆中谷第一小学校 5 学年児童 8 名による落語「番町皿屋敷」



会場は児童たちの登場前から万全なニコニコ態勢。



最後までのりに乗った熱演で会場を沸かせました。ニコニコ会のみなさんもこの笑いと拍手で返礼です。

☆そのころ調理場では昼食に振る舞われる「太巻き寿司、御稻荷さん」づくりが進む

*飯切りでは手早く寿司酢が合わせられ寿司飯しゃりがつくられる



盛り付ける什器が60個準備される。



盛り付けられた節句料理。味も盛り付けも見事でした。

*巻ずしの竹の上に海苔を広げしゃりしゃりでネタを巻いていく



平成24年度最後の被災地支援ボランティア活動が3月16日に行われ20名が参加しました。内容は7mを超える津波で壊滅的な被害に遭った久之浜漁港で、毎年行われてきた久之浜の一大イベントである「漁港祭り（平成13年から開催）」で使う舞台や平成21年に40年ぶりに復元した「番伝馬船」を格納していたコンテナ（津波に流されたが奇跡的に電線に引っかかり流失を免れた）からものを搬出し漁港の整備が終わるまで仮置き場に移動するというもの。作業は、地震によって沈下（約70cm）した地盤を、嵩上げする作業や施設の復旧作業と並行して行われましたが、天候にも恵まれスムーズにすすみ、番伝馬船「海竜丸」の仮置き場である久之浜地域づくり協議会木村会長宅敷地まで移送することができました

いわき市久之浜大久支所

↑ 写真上は今年度最後になる被災地・久之浜に向けて中谷自治センターを発つマイクロバス内の参加者の皆さん。



写真右はいわき市久之浜大久支所前で長遠藤支所長（左）渡辺職員（右）と作業内容や手順などをミーティング。

↑ 丘陵の法面7mの高さまで津波が襲う



この場所は丘陵の法面を逃れるしかない。奇跡的に犠牲者は出なかったが津波から逃れようと必死にコンクリート壁を登ろうともがいた人の爪あとと血糊が残っていたそうです。（真ん中の船の真後が今回の作業現場）

↓ 約70cmが地盤沈下



漁船が接岸するところでは高上げ作業が続いている



↓ 約30cmの段差

道路と市場の床面が30cmの段差ができ修復中

☆コンテナから漁港祭りの資材を運び出す。(前ページと比べると作業場所が分かります)

↑ 建物のこの高さまで
津波で沈む(約7m)

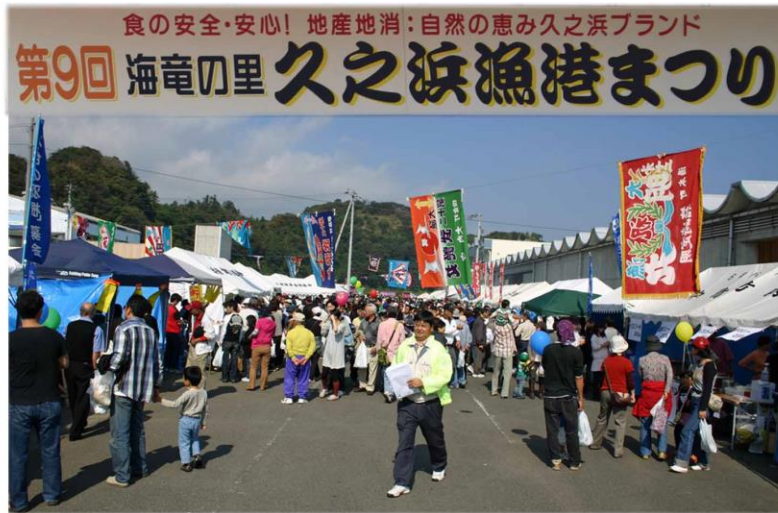


漁港まつりの舞台資材を港内の仮置き場に運ぶ
ボランティアの皆さん



津波に流されたが電線に引っかかり奇跡的に流失を免れたコンテナ

☆平成 21 年の漁港まつりを思い出してください。その時に「伝馬船」の進水式が行われました 9 / 14



かつて人や物を運んだ木造の船『番伝馬船』が復元され、その進水式が、いわき市の久之浜港で行われました。『番伝馬船』は、漁で使われる伝馬船よりひとまわり大きく、40年ほど前までは、この久之浜港でも活躍していました。地域おこしにと復元されたこの番伝馬船は、地域のイベントや子どもたちの体験学習に活用されています。



コンテナから伝馬船「海竜丸」を運び出す。全長6m、幅1.2mの船体は20人がかりでも容易ではありませんでした。

☆天気に恵まれ順調に進む作業

10 / 14



コンテナから一旦道路（法面側）に運び出される伝馬船。



船大工の素晴らしい技が結集された「海竜丸」。10人が乗船できる



写真左は ここから更に仮置き場までトラックで運ぶ。写真右は いわき市漁業協同組合久之浜支所長の江川章氏があいさつに来られました。



☆無事仮置き場に「安置」 (久之浜大久地域づくり協議会木村会長宅門前)



見覚えのある木村会長宅に到着。



最後の力仕事に精を出す。



無事に仮置き場となった久之浜大久地域づくり協議会木村会長宅門前に安置。記念撮影に納まったボランティアの皆さん。



ハマエンドウを植栽した中浜海岸も被災し、現在復旧作業が行われていて立ち入りできませんでした。しかし自生のハマエンドウはしっかり芽を出しているのを確認してきました。植栽したハマエンドウもがんば

っていることを信じて帰路につきました。背景には「殿上山」も見える。帰館は15:30でした、みなさんごくろうさまでした。

3、豊齡学級「閉講式」 2013/3/16

3月16日、豊齡学級の「閉講式」が行われ瀬谷豊委員長から24年度を振り返り、大きな成果を上げることができたこと、また、会員相互の親睦が図られたことに感謝申し上げたいと挨拶。会員の皆さん

からも一年間の成果と課題を出し合い次年度に活かしてゆくことなどを話し合いました。



面づくりの指導は
稜川傳次さん



制作中の「お多福面」を囲んで一年の成果と次年度の活動について話し合う「豊齡学級」の皆さん。

4、退任のあいさつ 根本 忠 2013/3/31

☆素晴らしい地域力に感謝、「地域自治」に向けて頑張りましょう

皆さんには 二期四年間大変お世話になりました。

四年前、公民館活動を通して築き上げられた素晴らしい基盤を引き継ぎその任務と責任の大きさに緊張したのを覚えています。

しかし、地域の皆さんから温かいお力添えを頂き自治センターの運営と事業推進に力量不足ながら職務を果たすことが出来ました。

三大事業では「自治」を目指し、参加する人たちによる自主的運営への改革や、社会教育・生涯学習においても各学級、サークルとも主体的に活動が展開されたこと。また、テーマを共有する地域団体との連携が図られ地域と一体化できたことなど大きな成果に結びついています。この陰には物心両面から温かく支えて頂いた七行政区長会のお力添えがあることは言うまでもありません。

更に、地域づくりの一翼を担う取り組みとしてのまちづくり委員会の活動も進められ中谷各地域に徐々にではありますが着実に地域おこしの「核」が出来つつあります。これからも、息の長い取り組みになりますが各地域とも「協働による総参加体制」を追求しながら進めていきたいと思ひます。

命題であります「地域自治」へのステップは、今、町においてフレームづくりにはさしかかっているところで、あと一時の猶予が必要かと思われまひます。ただ、地域の窮状は時間の経過と共に厳しさを増すばか

りですので、どのような状況下でも、建設的な意見の提言と能動的な働きかけが必要です。これまでに培った英知を結集して展望を切り開いて頂きたいと思ひます。

二年前の東日本大震災でもみなさんの機敏な対応と温かい支援活動が展開されました。

いち早くボランティア体制確立に取り組みられました中谷地区区長会とボランティア活動に参加された皆さんに改めて敬意を表すると同時に「中谷の素晴らしい地域力」を誇りとして共に持ち続けていきたいと思ひます。被災地では漸く復興のプログラムが進行しはじめました。これからは、状況を把握しつつ柔軟な活動が求められると思ひます。

最後になりますがセンターを大所高所からご指導いただいた中谷自治センター運営協議会のみなさんとセンター長のプレーンとして活動して頂いた企画推進委員会のみなさんに感謝申し上げます。

そして豊富な発想力でセンター業務を取り仕切って頂いた根本重泰事務長、中谷自治センターのお母さん役として活動頂いた文庫指導員の吉田典子さんに心から御礼を申し上げます。これからもセンターの要役として力を発揮されますことをご期待申し上げます退任のあいさつといたします。